

## 第19年度 事業計画

**事業の目標** 「地域・社会や活動、ひろばで、安心してよりよい人間浴ができるように。」  
（活動での人間浴から、地域の隅々まで人間浴ができる環境に。）  
⇒事業づくりからあらためて子どもも関わる人も育ち合える環境づくり

前年度に引き続き、「まちに子どもとともにだれもが育ちえある人があふれるように。活動での人間浴から、地域の隅々まで人間浴ができる環境に。」に取り組んで参ります。そのなかで今年度は、まずは地域のことを改めて「知り」、そして山科醍醐こどものひろばについて地域の方々に「知ってもらう」「伝える」ことに取り組んでいきたいと思えます。また山科醍醐こどものひろばの歴史、活動、活動に関わる方々、大事にしてきた「想い」や「文化」をまとめ直し、地域や社会に伝えていきたいと考えています。一方では、げんきスポットの契約期間も終えるため拠点についても検討と、移転を実施することが必要となりますので、各議論を早めに行いながら、実務的な対応を行っていきます。多彩な活動や社会の大きな動きなどはあっても、地域の子どものもとにもあり続けてきた団体として、さらにまちにあり続けることができることと、そこにどのような文化（大事にしたいこと）を打ち出せるかがこれからの時代において必要だと考えています。以下は、前年度に立てた項目に対し、さらに今年度取り組むことについて方向性を記載しています。

### ①山科醍醐こどものひろばがだれもが活かせる方法の打ち出し

法人内部での議論が不十分であるため、まずはその場を設けることと、運営ルールとしての、財務や事業管理などの効率化、制度に応じたルールづくりなどを引き続き行っていく。40周年に向けて、これまで活動を作ってきた人たちの思いやこれまでの実績と、これからをともにしていく人たちとの思いやアイデアの共有できる機会づくりがさらに必要と考えている。

### ②子どもが安心してふれあえる人がまちにあふれるアクション

連携先が増えたことで、活動の届け直しが進んでいるが、まだまだ地域で活動する人たちにひろばの思いを伝えることができていない。また地域の子どもたちには活動のことは知っていても、こどものひろばのことは知られてないということも多い。今年度は、まずは山科醍醐こどものひろばを知ってもらうことに取り組み、各活動の魅力などを地域に届けることに取り組む

### ③活動実施場所の拡大（開催エリアを意識）

げんきスポットの移転のこともあり、まず軸になる拠点についてさらなるアイデアと物件探しが最優先となる。今後どのような実践を行なっていくかも新拠点の条件としては大切になるため、早期に意見交換の場をもち、移転の準備をおこなっていく。

一方で、⑦の項目で詳しく触れるが、地域との連携で活動範囲の拡充は今後も進めていく。

### ④ボランティア中心事業と専門性が必要な事業など各事業の連携

フェスタを中心に、全事業や一部の事業連携などが進んできているが、現状では、それぞれを生かすことができるだけの意見交換やコミュニケーションが重ねられたわけではないため、今年度はさらに各事業の特性や魅力などをお互いが理解し合い、必要に応じて連携事業に取り組める土壌づくりを行っていく。

また、専門性が高い事業や収益性を伴う事業、これまで取り組みが少なかった若者世代の生活支援などについても地域のニーズが高いが、山科醍醐こどものひろばが事業の数を増やすということだけではなく、必要に応じ、別法人の設立（運営体制を分ける）といったことも視野にいれつつ、今後長期的に安定して事業が行える基盤づくりにも着手する。例：公共施設の指定管理、小規模保育、芝居小屋など拠点での収益事業など

#### ⑤地域連携（全事業）・訪問型活動（特に課題解決型事業）の充実

昨年度再開したこどもフェスタだけでなく、つどいのひろばの拡充事業や各事業の強みを連携先や依頼先、地域イベントで発揮する機会に恵まれているため、今後も可能な範囲で充実を図ると共に、現状は、実践できるスタッフに限りもあるため、より多くの人たちが関わり合い、地域に出向くことができる体制づくりも行なっていく。

#### ⑥会員・ボランティアの交流強化（会員数を増やす。）

昨年度はあまり実施できていなかった部分ではありますが、特に連携先の方々から支援会員などになっていただけることが増えてきているため、今後より充実した実践を行うために、地域のなかの支援会員が増えていくように、働きかけを行なっていく。

#### ⑦全小学校区で子どもと出会う仕組みづくり

山科地域では、現在行っている各学校との連携促進を深めながら、ヒアリングやアンケートといった調査などあたらめて、地域の子どもたちの状況に向き合う実践を行う。

醍醐地域では、社会福祉協議会、民生児童委員会（醍醐ブロック）、区役所などとの連携により、各小学校区での子どもたちの活動づくりをおこなっていく。

また、保育所や福祉施設、カフェなどを利用した連携事業は今後も取り組み、公的なネットワークと民間のネットワークを重層的にし、地域の子どもたちの育ちの環境の充実を図っていきます。

## 第19年度 各事業計画

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
舞台芸術 鑑賞活動	演劇部ぼっぴ・こーん公演「雪わたり」 やまびこ座と共催して実施する	11月26日	西陣文化センター	4	地域の子どもと大人 200人	—
子どもが自ら創る体験 活動事業	Jr. キャンプ 小学生3年～中学3年対象の2泊3日のキャンプや年間を通じての野外体験活動を行う。	通年	地域一円	10	地域の子ども 40人	370
	こどもフェスタ 当法人主催の子ども主体の「祭典」を実施する。	4月	本願寺山科別院	150	地域の子どもと大人 700人	—
	わんぱくクラブ 幼児・低学年の子ども達が、舞台鑑賞や野外活動を実施する。	通年	地域一円	15	地域の子ども 30人	660
	山科醍醐こどもの創作劇「ちよい劇くらぶ」「体験ワークショップ」 初めて劇をする小・中学生対象のワークショップと即興作品の発表会。体験ワークショップは1回完結(大人も参加可)。	通年	社会福祉法人同和園他	4人	地域の子どもと大人 のべ50人	100
	町たんけん 地域を知り、その中の出会いから人と人がつながり、より良い地域になることを目指す。山科かるたや、ガイドブックを普及させ、有効活用できるように、小学校を巻き込んだ活動を始める。 ※山科“きずな”支援事業補助金カチャレンジ事業(申請中)	通年(小学生との町たんけん活動は夏～春)	地域一円	11人 (スタッフ・ボランティア・講師)	小学生15名山科かるた冊子(区内年長児・1・2年生と先生約3500人、住民1000名に配布) 学校訪問200人	632 (助成金200)
子育てサポート事業	あそびっこクラブ 未就園児を持つ親と、その子ども達のサポート活動。地域の保育所やお寺を会場にして活動する。同窓会として親子で集う場を設ける。	通年	地域一円	3	家族12組	110
	げんきスポット0-3(ぜろさん) 未就園児を持つ母と、その子ども達のサポートを常設会場「げんきスポット」にて実施する。屋根のある公園を目指す。 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜日	げんきスポット	8	地域の子どもと大人 のべ65000人	6325 (委託金6025)
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手なこどもや、学習機会の少ないこども、また経済的等の理由で体験活動の機会がないこどもへの個別(生活・学習・余暇)支援事業。	通年	地域一円	40人	地域の子ども:の べ200人	—
	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手なこどもや、学習機会の少ないこども、また経済的等の理由で体験活動の機会がないこどもへの個別(生活・学習・余暇)支援事業。 ※京都地域創造基金事業指定助成事業	通年	地域一円	40人	地域の子ども:の べ200人	5549 (助成金4099)

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
子育てサ ポート事業	山科醍醐地域ひとり親家庭等へ の生活・学習・居場所サポート事 業 伏見区醍醐・小栗栖地域を中心 に、小学校高学年の子どもとその 家族へのサポートを行う。 ※京都府委託事業	通年	地域一円	40人	子ども: のべ300 人 保護者: のべ15 人	6296 (委託金6296)
	外部保育受入事業 外部団体からの保育依頼を受け 入れる。	通年	京都一円	5	—	—
	ほっとタイムえんぴつ 小学校放課後事業。 子どもたちの放課後の居場所作 り。	通年	小栗栖小学校・ 醍醐事務所	5	3人	—
ボランティ アサポート 事業	ボランティア・研修部 ボランティア希望者の、各事業へ のコーディネートを行なう。 ボランティア活動に参加する際 の、子どものかかわり方や、参 加者が希望する内容の研修会を 定期的実施する。	通年	当法人事務所	4	—	—
	講師派遣・インターンシップ受入事 業 当法人スタッフの講師派遣及び当 法人におけるインターン希望者の 受入を行う。	通年	地域一円	4	—	—
	のびのび@たいむ のびのび事業の利用を終えた高 校生等の居場所とボランティア推 進事業。	通年	地域一円	5	のべ60人	—
広報・出版 事業	コッペパン 広報誌「コッペパン」の発行 ※山科区社会福祉協議会 助成事業	季刊	—	2人	1000部4回	40 (助成金30)
	ひろばつうしん 会員向け情報誌「ひろばつうしん」 の発行。 イベントや活動の参加募集チラ シ、外部団体のチラシなども発 送。	月刊	—	—	150部を12回	—
	ひろばの本 「貧困とひとりぼっちのないまち」 の頒布を通じて、ひろばの広報や 社会への啓発を進める	通年	—	—	—	801
	サポートBOOK 「子どもの貧困課題に地域で取り 組む支援者のアクションサポート BOOK」の頒布、活用。 読書会の開催。	通年	—	—	—	200
	ホームページ 当法人におけるホームページの定 期的な更新情報の発信及び、基 本情報の公開を行う。	通年	—	—	—	—